

空 乗 第 2 0 1 5 号  
平成11年 2月23日 (制定)  
国空航第3037号  
令和 4 年 3月29日 (最終改正)

# 操縦士実地試験実施細則

## 操縦教育証明

### (回転翼航空機)



## I. 一般

1. 操縦教育証明に係る実地試験を行う場合は、操縦士実地試験実施基準及びこの細則によるものとする。
2. 操縦教育証明に係る実地試験では、模擬飛行装置又は飛行訓練装置を使用した実技試験は行わない。
3. 航空法施行規則第64条の2に定める操縦教育証明に付す条件については、「操縦に2人を要する飛行機に同乗して教育を行う場合に限る」とする。

【参考】当該細則における各資格の技能証明等の表記について

1. 回転翼航空機における各資格の技能証明等の表記

航空機の種類「回転翼航空機」の記載は省略。例えば「自家用操縦士」という記載は、回転翼航空機における自家用操縦士の技能証明を意味する。また、「計器飛行証明」、「操縦教育証明」も同様である。

2. 「滑空機以外の技能証明を有する者」とは以下の○が付された資格

	定期	事業用	自家用	准定期
回転翼				—
飛行機	○	○	○	○
飛行船	○	○	○	—
滑空機	—			—

3. 「異なる種類の航空機の技能証明（滑空機を除く）」とは以下の○が付された資格

	定期	事業用	自家用	准定期
回転翼				—
飛行機	○	○	○	○
飛行船	○	○	○	—
滑空機	—			—

4. 「異なる種類の航空機（滑空機を除く）の事業用操縦士以上の技能証明」とは以下の○が付された資格

	定期	事業用	自家用	准定期
回転翼				—
飛行機	○	○		
飛行船	○	○		—
滑空機	—			—

5. 「事業用操縦士以上の技能証明」とは以下の○が付された資格

	定期	事業用	自家用	准定期
回転翼	○	○		—
飛行機				
飛行船				—
滑空機	—			—

注) —：航空法施行規則別表第二において、各航空機の種類における飛行経歴その他の経歴が設定されていない資格（平成25年4月1日現在）

## Ⅱ．口述試験

口述試験において行うべき科目の実施要領及び判定基準は、次表のとおりとする。

1．一般知識			
(目 的) 法規、工学、気象等の学科教育に必要な知識について判定する。  (注) 事業用操縦士以上の技能証明を有する者は実施しない。			
番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
1－1	一般知識	次の科目について質問し、答えさせる。 1．航空法規 2．航空交通管制 3．航空工学（航空機の性能、運用限界等を含む。） 4．航空気象 5．空中航法	質問事項に正しく答えられ、各科目について事業用操縦士と同等の知識を有していること。

2. 教育要領			
(目 的) 操縦教育に必要な基本的知識について判定する。			
番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
2－1	操縦教員	技能証明制度の概要及び操縦教員の法律上の位置づけと役割並びに操縦教育の目的について質問に答えさせ、又は説明させる。	質問事項に正しく答えられ、又は説明できること。
2－2	訓練計画	1. 自家用操縦士技能証明取得訓練コース又は事業用操縦士技能証明取得訓練コースを指定し、受験者に訓練計画を提出させる。 2. 訓練計画を点検し、次の事項について質問に答えさせ、又は説明させる。 (1) 基準及び目的の設定 (2) 学習ブロックの確認 (3) 訓練シラバス (4) レッスンプラン (5) その他必要な事項	1. 適切な訓練計画を作成できること。 2. 質問事項に正しく答えられ、又は説明できること。
2－3	操縦教育	1. 次の科目の中から少なくとも3つ指定し、試験官を練習生と仮定して教育を行わせる。また練習生に教育する場合の要点について質問に答えさせ、又は説明させる。 (1) 航空法規 (2) 航空交通管制 (3) 航空工学（航空機の性能、運用限界等を含む。） (4) 航空気象 (5) 空中航法 2. 操縦練習科目を練習生に教育する場合の目的、実施要領及び要点について質問に答えさせ、又は説明させる。	1. 各科目について操縦教員として教育する場合の要点を的確に把握し、明確に説明できること。 2. 操縦練習科目を正しく理解し的確に説明できること。 3. 質問事項に正しく答えられ、又は説明できること。

3. 安全対策			
(目 的) 操縦教育を行う上で必要な安全に関する知識について判定する。			
番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
3－1	単 独 飛 行 の 安 全 基 準	<p>単独飛行に係る安全基準(回転翼航空機)について質問に答えさせ、又は説明させる。</p>	<p>質問事項に正しく答えられ、又は説明できること。</p>
3－2	見 張 り と 衝 突 回 避	<p>次の事項について質問に答えさせ、又は説明させる。</p> <p>1. 操縦練習の初期の段階から練習生に対して適切な見張りと衝突回避の習慣を形成するための教育を行うことの重要性</p> <p>2. 見張りと衝突回避についての視覚、知覚</p>	<p>質問事項に正しく答えられ、又は説明できること。</p>

### Ⅲ．実技試験

実技試験において行うべき科目の実施要領及び判定基準は、次表のとおりとする。

４．操縦練習			
(目 的) 訓練計画の作成、実技指導等を行わせ、操縦教員としての実技指導能力について判定する。			
番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
４－１	出 発 前 の 確 認	出発前に機長が確認すべき事項とその実施要領等について質問に答えさせ、又は説明させる。	質問事項に正しく答えられ、又は説明できること。
４－２	訓 練 計 画 の 作 成	１．練習生の飛行経歴及び技能レベルを受験者に示したうえ、実技指導を行うべき科目を指定し、訓練計画を作成させる。  (注) (４－４) の科目から指定する。 ２．訓練計画を点検し、質問に答えさせる。	１．適切な訓練計画を作成できること。 ２．質問事項に正しく答えられること。
４－３	飛 行 前 の ブ リ ー フ ィ ン グ	訓練計画に基づき、試験官を練習生と仮定して飛行前のブリーフィングを行わせる。	飛行前のブリーフィングが的確にできること。



番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
4－4	実技指導及び模範実技	<p>(実技指導)</p> <p>基本的な操縦技術（水平直線飛行、旋回、上昇・降下、加減速、ホバリング）及び指定した科目について試験官を練習生と仮定して実技指導を行わせる。</p> <p>(模範実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科目を指定し模範演技を行わせる。</li> <li>2. 指示によりオートローテーション着陸を行わせる。</li> </ol> <p>(注) 指定する科目は事業用操縦士及び自家用操縦士に係る実地試験の科目等から指定する。</p> <p>(注) 科目等とは、操縦士実地試験実施細則及び別添の付録に定めた科目をいう。</p>	<p>(実技指導)</p> <p>各科目の指導の要点を把握し、実技指導が的確にできること。</p> <p>(模範実技)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 操縦技量は、細則等に定める判定基準以上であり、かつ、柔軟、円滑な操作であること。</li> <li>2. 各科目の要点を的確に説明しながら操作できること。</li> <li>3. オートローテーション着陸については、安全に着陸できること。</li> </ol> <p>(注) 細則等とは、操縦士実地試験実施細則及び別添の付録をいう。</p>
4－5	飛行後 briefing	<p>試験官を練習生と仮定して飛行後のブリーフィングを行わせる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 行った科目の評価、不十分な点の指摘及びその矯正のための方法</li> <li>2. 今後の操縦練習において注意すべき事項</li> </ol>	<p>飛行後のブリーフィングが的確にできること。</p>

5. 総合能力			
<p>(目 的)</p> <p>実地試験全般にわたって教育技法、教育態度等を確認し、操縦教員としての教育能力を総合的に判定する。</p>			
番 号	科目	判 定 要 領	判 定 基 準
5－1	評価	評価の公正性、客観性について判定する。	公正、かつ、客観的な評価ができること。
5－2	教育技法	教材の準備及び利用、教育技法について判定する。	1. 適切な教材を準備し、有効に利用できること。 2. 適切な教育技法により指導できること。
5－3	表現力	学科教育及び実技指導における重点の指示、注意の喚起等の方法について判定する。	1. 言語は明瞭であること。 2. 平易で適切な説明及び指導ができること。
5－4	教育態度	教育中の服装、動作、態度について判定する。	操縦教員として適切な服装、動作、教育態度であること。

実地試験成績報告書の様式は次のとおりとする。

(操縦教育証明)

条件有り	総合判定

① 受 験 者 調 書			
ふりがな _____		□昭和 □平成	
氏 名		生年月日                      年      月      日	
受験する航空機の種類	□飛行機 □回転翼航空機 □滑空機 □飛行船		既得の技能証明及び番号
試 験 に 使 用 す る 航 空 機			
等 級	型 式	国籍・登録記号	番号 _____
□陸上 □単発(機) □ビストン機 □水上 □多発(機) □タービン機	式 型		
連 絡 先 (会社団体等)	電話番号		
学科試験合格	年              月              日              受 験 地		
② 教 官 の 証 明			
受験者                      は操縦教育証明に係る模擬飛行装置又は飛行訓練装置による所定の技能を有していることを証明します。			
教官の有する技能証明の資格と番号 _____		操縦士      No. _____	
		操縦教育証明      No. _____	
年              月              日		教官氏名 _____	
受験者                      は操縦教育証明に係る所定の技能を有していることを証明します。			
教官の有する技能証明の資格と番号 _____		操縦士      No. _____	
		操縦教育証明      No. _____	
年              月              日		教官氏名 _____	
③ 試 験 の 実 施			
模擬飛行装置又は飛行訓練装置		実機	
期日              年              月              日      場所		期日              年              月              日      場所	
試験官		試験官	
特記事項		特記事項	

1. 受験者は、①受験者調査欄に所要事項を記入又は✓印を付すこと。
2. 教官は、②教官の証明欄に所要事項を記入のうえ、試験官に提出すること。
3. 試験官は、「条件付操縦教育証明」の試験を実施した場合は所定の欄に✓印を付すこと。

# 成 績 表

試 験 科 目	判 定			
	飛 行 機	回転翼航空機	滑 空 機	飛 行 船
口述試験				
１．一般知識				
１－１ 一般知識				
２．教育要領				
２－１ 操縦教員				
２－２ 訓練計画				
２－３ 操縦教育				
３．安全対策				
３－１ 単独飛行の安全基準				
３－２ 見張りとは衝突回避				
実技試験				
４．操縦練習				
４－１ 出発前の確認				
４－２ 訓練計画の作成				
４－３ 飛行前のブリーフィング				
４－４ 実技指導及び模範実技				
４－５ 飛行後のブリーフィング				
５．総合能力				
５－１ 評価				
５－２ 教育技法				
５－３ 表現力				
５－４ 教育態度				
(注) 上級滑空機を使用する場合は２回飛行するものとし、うち少なくとも１回は航空機曳航によるものとする。				

附 則（平成 25 年 11 月 8 日 国空航第 556 号）

（施行期日）

1. この操縦士実地試験実施細則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
2. この操縦士実地試験実施細則の施行の日から 6 ケ月を経過する日までは、従前どおりとすることができる。

附 則（令和 2 年 12 月 22 日 国空航第 2175 号）

この改正通達は、令和 3 年 1 月 1 日から施行する。

附 則（令和 4 年 3 月 29 日 国空航第 3037 号）

この改正通達は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

別 添（付録）

操縦士実地試験実施細則（操縦教育証明・回転翼航空機）、４－４ 科目（実技指導）及び（模範実技）に規定された「指定する科目」であって、事業用操縦士及び自家用操縦士に係る実地試験の科目以外の科目を以下に示す。

１．地表付近における操作			
番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
１－１	ホ垂 バ直 リ離 ン陸 グ（ 及離 び水 ） ・ 着 陸 （着 水 ）	１． 向かい風及び左右の横風で垂直に離陸してホバリングを行わせる。 ２． 向かい風、左右の横風及び背風でホバリングを行わせる。 ３． 向かい風、左右の横風ホバリングから垂直に着陸させる。 ４． 水上機の場合 １～３を水上で行わせる。	１． 他機や障害物等、周辺の状態を考慮して、ホバリングが開始されていること。 ２． 針路は±５度以内の変化であること。 ３． 位置の移動は、２７メートル以内であり、後進しないこと。 ４． 地上共振を避けるための配慮がなされていること。 ５． ＬＴＥに対する配慮がなされていること。 ６． 水上機の場合 （１）目標物を確実に捉え安定したホバリングから接水、離水ができること。 （２）波高の判定が正確にできること。
１－２	ホ バ リ ン グ 旋 回	１． 向かい風ホバリングから左右３６０度旋回を行わせる。 ２． 一定の旋回率を保って３６０度/３０秒～６０秒以内に旋回させる。 ３． 概ね操縦席を中心として行わせる。	１． 他機や障害物等、周辺の状態を考慮して、ホバリング旋回が開始されていること。 ２． ＬＴＥに対する配慮がなされていること。 ３． 旋回率の変化が少ないこと。 ４． 位置の移動が少ないこと。 ５． 高度の上下が少ないこと。

番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
1－3	四角飛行	地上に設定したコース上を針路を一定に保ち、ホバリング高度で移動させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高度の上下が少ないこと。</li> <li>2. 移動速度が一定であること。</li> <li>3. コースからの離脱が少ないこと。</li> <li>4. 針路は±5度以内の変化であること。</li> </ol>

2. 外部視認目標を利用した飛行を含む空中操作			
番 号	科目	実 施 要 領	判 定 基 準
2-1	通常 旋 回	傾斜角30度で左右360度旋回を連続して行わせる。	飛行中の諸元は、 高度は±50フィート 針路は±5度（旋回停止時、 切り返し時） 傾斜角は±5度 以内の変化であること。
2-2	蛇 行 飛 行	<p>1. 巡航状態で次の順序により一連の科目を行わせる。</p> <p>(1) 目標(地上に基線をとってもよい。)に対し、右(左)へ90度旋回し、続いて左(右)へ180度旋回する。</p> <p>(2) 180度旋回終了後直進し、旋回を終了したときから目標正横までの時間を計測する。</p> <p>(3) 目標正横位置から計測した時間だけ更に直進したのち、右(左)へ180度旋回し、続いて左(右)へ90度旋回して目標に向かう。</p> <p>2. 傾斜角は30度とする。</p> <p>3. 開始後の針路に対し、風向が向かい風又は背風になるよう目標を選定すること。</p>	<p>飛行中の諸元は、</p> <p>高度は±100フィート</p> <p>速度は±10ノット</p> <p>針路は±10度（旋回停止時、 切り返し時）</p> <p>傾斜角は±5度</p> <p>以内の変化であること。</p>